

三重県東日本大震災支援本部 第26回本部員会議 概要

- 1 開催日時：平成29年1月13日（金）10:05～10:35
- 2 開催場所：県庁3階プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり（●説明、☆意見）

1 各部署の取組について

(1) 平成28年度の取組

- 防災対策総務課長 資料1により説明

(2) 事業の実施報告

- 教育委員会事務局教育総務課により「学校防災ボランティア事業」について資料2により説明

2 現地派遣職員による活動報告について

「岩手県への派遣報告～東日本大震災に係る水道施設復旧業務～」

- 岩手県 環境生活部県民くらしの安全課（企業庁企業総務課より派遣）
中村主任から資料3により説明

☆企業庁長

- ・昨年11月に岩手県の課長が来県された際、「三重県から派遣されている職員は、台風10号のボランティア活動にも躊躇なく、積極的に参加されていたのを見て、三重県庁は災害関連に関してボランティア活動も含め、若手職員の教育・訓練がしっかりされていると感じた。ぜひ参考にしたい」というお話をいただいた。
- ・電気職は、全体で120名、そのうち企業庁には66名が所属している。その他は管財課、営繕課、防災部局などで活躍しており、県政の一翼を担っているため、今後も自覚と誇りを持って業務に励んでほしい。

(知事からの指示事項)

- ・本日の教育委員会、派遣職員からの報告はいずれも、次なる人材育成、次なる事業の経験など「次につながっていく」という印象を受けた素晴らしい報告だったと思うので、それらがつながっていくようにこれからも県としても取り組んでいかなければならないと感じた。
- ・一方で東日本大震災からまもなく6年ということで、派遣職員の報告にもあったように、復興は着実に進みつつあるものの、これからはまだまだ時間がかかる課題の大きなものも控えているということもありましたので、復興のステージに応じた支援など息の長い取組をしていく必要がある。
- ・また教育委員会からの報告で、「交流」をやっていくことで、県内での防災体制での次なる人材育成につながっていくということもあるので、「支援から交流」ということを大切に、各部署とも引き続き対応して欲しい。